

# 常光寺々報

2020年4月

五月九日・十日に予定していた

## 永代経法要は

中止いたします

## 住職継職法要も

延期になりました

光輪法座や安らぎ法座も

当分の間お休みです



世界中を騒がせている新型コロナウイルスの感染は、日増しに拡大しております。安倍総理は先月末の記者会見で「この戦いは長期戦を覚悟

していただく必要がある」との見解を示され、先日、緊急事態宣言を發出されました。

ご本山でも「感染拡大防止を第一」として、幾つもの法要を中止し、この事態に対処しております。

これらの状況を鑑みて、常光寺は五月九日・一〇日に予定して

おりました住職継職法要を延期し、永代経法要も中止とさせていただきます。

今後の法要や、法座は事態が収束するまでお休みとさせていただきます。

再開の時には改めてご案内を申し上げます。

よろしくお願い申し上げます。

ご法事は十名程度なら、従来通りお参りいただけます。(参列者が十名を超えるときには、ご連絡ください) お墓参りについては、「三密」(密

閉・密集・密接)には該当しませんので、どうぞいつでもお参りください。不安や心配事がありましたら、ご遠慮なくご相談ください。

## こころの転換

二月末の自粛要請から約二か月、事は緊急事態宣言へと進み、悪化しながら回復の兆しがまだなく、ストレスのたまる生活をされていることと思います。でもこんな時こそ「ありがとう」の心を忘れないようにしたいものです。

エレナ・ホグマン・ポーターの小説『少女パレアナ』の主人公のように「よかったさがし」をしてみませんか。『鏡のないのもうれしいわ。鏡がなければ、ソバカスも見えませんがね』

せんこうじん 染香人のその身には  
こうけ 香気あるがごとくなり  
これをすなはちなづけてぞ  
こうこうしょうじん 香光莊嚴とまうすなる

## ある女性念仏者

これまで、若い方から年配の方まで多くの念仏者との出会いがあった。Mさんという女性との出会いは龍谷大学だった。私は教員、彼女は学生だった。当時Mさんは70代、白髪で物静かではあったが、存在感のある方だった。念仏の領解に関して学生間で意見が対立しても、決して譲るとはなかった。

ある時、若い頃の話をしてくださった。彼女は嫁姑問題で苦労していたそうだ。ある年の大みそか、年越しそばの準備を整え、夫に2階で寝ている姑を呼びに行くように頼んだところ、2階から「死んでいる」と叫び声が聞こえた。それを聞いたMさんは、心の中で「(死んでいるのが)本当であってほしい」と思った

## 香りが染みついていくように

「浄土和讃」

そうだ。思ってはならないことを思ってしまったのである。

そして、Mさんは「罪悪深重の身です」と静かにつぶやいた。この言葉は弥陀の本願と切り離して語れるものではない。弥陀の本願に照らし出された自身のありのままの姿を口にしたのである。そのような自身が弥陀の摂取の中にあることをしみじみと受け止めた言葉であった。まさに、『歎異抄』後序の「それほど業をもちける身にありけるを、たすけんとおぼしめしたちける本願のかたじけなきよ」という受け止めである。

## 周囲の人にも

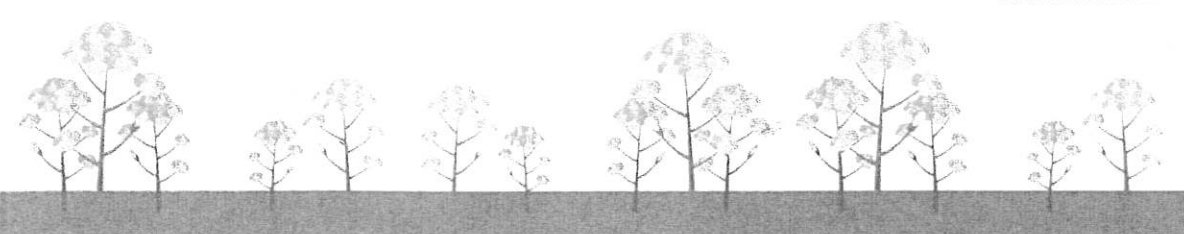
平成28年7月、私が安居の典議を務めていた最中に、Mさんは浄土へと往生された。娘さんから夜、「母が往生し



ました」と連絡があった。往生される前に「先生は今、安居でお忙しいから、連絡は後にするように」と言われたそう。

Mさんは、冒頭の和讃にある「染香人」そのものだった。「染香人」とは、仏の智慧の香りに染まった人という意味である。「香光莊嚴」とあるのは、念仏者は仏の香しい智慧の光明に荘嚴されているというのである。念仏は決して押しつけるものではない。自身が念仏の智慧に染まっていれば、周囲の人にも知らず知らずのうちに染みついていくものなのである。

Mさんもすでに浄土へと往生された。凡情には叙しきは禁じ得ないが、浄土に往生して阿弥陀如来と同じさとりを開かれ、今は阿弥陀如来とともに我々に救いの手を差し伸べてくださっている。



# 常光寺々報

2020年4月

五月九日・十日に予定していた

## 永代経法要は

中止いたします

## 住職継職法要も

延期になりました

光輪法座や安らぎ法座も

当分の間お休みです



世界中を騒がせている新型コロナウイルスの感染は、日増しに拡大しております。安倍総理は先月末の記者会見で、「この戦いは長期戦を覚悟

していただく必要がある」との見解を示され、先日、緊急事態宣言を發出されました。

ご本山でも「感染拡大防止を第一」として、幾つもの法要を中止し、この事態に対処しております。

これらの状況を鑑みて、常光寺は五月九日・一〇日に予定して

おりました住職継職法要を延期し、永代経法要も中止とさせていただきます。

今後の法要や、法座は事態が収束するまでお休みとさせていただきます。再開の時には改めてご案内を申し上げます。

よろしくご理解をいただきますようお願いいたします。

ご法事は十名程度なら、従来通りお参りいただけます。(参列者が十名を超えるときには、ご連絡ください) お墓参りについては、「三密」(密

閉・密集・密接)には該当しませんので、どうぞいつでもお参りください。不安や心配事がありましたら、ご遠慮なくご相談ください。

### こころの転換

二月末の自粛要請から約二か月、事は緊急事態宣言へと進み、悪化しながら回復の兆しがまだなく、ストレスのたまる生活をされていることと思います。でもこんな時こそ「ありがとう」の心を忘れないようにしたいものです。

エレナ・ホグマン・ポーターの小説『少女パレアナ』の主人公のように「よかったさがし」をしてみませんか。

『鏡のないのもうれしいわ。鏡がなければ、ソバカスも見えませんか。のね』

せんこうたん 染香人のその身には 香気あるがごとくなり これをすなはちなづけてぞ 香光荘嚴とまうすなる

### ある女性念仏者

これまで、若い方から年配の方まで多くの念仏者との出会いがあった。Mさんという女性との出会いは龍谷大学だった。私は教員、彼女は学生だった。当時Mさんは70代、白髪で物静かではあったが、存在感のある方だった。念仏の領解に関して学生間で意見が対立しても、決して譲ることとはなかった。

ある時、若い頃の話をしてくださった。彼女は嫁姑問題で苦労していたそうだ。ある年の大みそか、年越しそばの準備を整え、夫に2階で寝ている姑を呼びに行くように頼んだところ、2階から「死んでいる」と叫び声が聞こえた。それを聞いたMさんは、心の中で「(死んでいるのが)本当であってほしい」と思った

## 香りが染みついていくように

「浄土和讃」

そうだ。思ってはならないことを思ってしまったのである。

そして、Mさんは「罪悪深重の身です」と静かにつぶやいた。この言葉は弥陀の本願と切り離して語れるものではない。弥陀の本願に照らし出された自身のありのままの姿を口にしたのである。そのような自身が弥陀の掬取の中にあることをしみじみと受け止めた言葉であった。まさに、『歎異抄』後序の「それほど業をもちける身にありけるを、たすけんとおぼしめし、たちける本願のかたじけなきよ」という受け止めである。

### 周囲の人にも

平成28年7月、私が安居の典議を務めていた最中に、Mさんは浄土へと往生された。娘さんから夜、「母が往生し



ました」と連絡があった。往生される前に「先生は今、安居でお忙しいから、連絡は後にするように」と言われたそう。

Mさんは、冒頭の和讃にある「染香人」そのものだった。「染香人」とは、仏の智慧の香りに染まった人という意味である。「香光荘嚴」とあるのは、念仏者は仏の香しい智慧の光明に荘嚴されていることなのである。念仏は決して押しつけるものではない。自身が念仏の智慧に染まっていれば、周囲の人にも知らず知らずのうちに染みついていくものなのである。

Mさんもすでに浄土へと往生された。凡情には救しさは禁じ得ないが、浄土に往生して阿弥陀如来と同じさとりを開かれ、今は阿弥陀如来とともに我々に救いの手を差し伸べてくださっている。

